

謹賀新年

本年もよろしくお願いいたします

2013年 元旦

伊那民報

発行
日本共産党
伊那市委員会
伊那市狐島3879
有線も(72)2465
ホームページ開設

昨年暮れの総選挙では、日本共産党と5区三沢よしお候補へのご支援をはじめ、物心両面のご協力、本当にありがとうございました。

北陸信越の議席奪還は果たせませんでした。日本共産党が掲げた雇用の拡大・景気回復、原発即時ゼロ、TPP参加断固反対、消費税増税ストップ、憲法9条守れの課題は、今後の政治の焦点となると確信します。

井上さとし参院議員「あいさつ」



井上さとし参院議員

参院選挙の年が明けました。伊那市の皆さんの二期十二年間のご支援に心から感謝いたします。

五月五日には五十五歳に

なります。参院選での自らの勝利と比例五議席獲得、日本共産党の躍進へ、「ゴーゴーゴー」と全力疾走します。

この間、参院国対委員長として消費税増税阻止のための野党の一点共闘や原発やオスプレイ、TPP、復興財源の活用問題などの迫及に力を尽くしてきました。

の実現、市民本位の財政健全化など、市民の福祉増進と活力ある伊那市のために奮闘する決意です。

来年4月には市議会議員選挙が行われます。より豊かで暮らしやすい伊那市実現に向けて、皆様のご要望をお聞きしながら政策の充実に努めてまいります。変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

日本共産党伊那市議員団

団長 前沢 けい子

飯島 光豊

柳川 ひろみ



これらの問題は、自公政権では何ら解決しません。これまで以上に国民的共同を広げて取り組みます。

自公政権は、本格的悪政の推進と改憲のために、参院選挙で「ねじれ」を解消し、改憲勢力の三分の二の獲得をめざしています。絶対に負けられません。

総選挙での悔しさを胸に刻んでがんばります。大きなご支援をよろしくお願いいたします。

地 蜂

今回の総選挙の結果をどう見るのか。「こんなに自民党が勝つとは思っていなかった」という声が多い。現に、六割をこえる議席を獲得した自民党の得票は有権者比で小選挙区二十四%、比例代表十五%しかない。これが小選挙区制の恐ろしさで、多くの民意は切り捨てられるのである。前回の選挙で自民党政治に見切りをつけた国民は民主党に期待した。しかし、民主党は掲げた政策をことごとく捨て去り、国民を裏切り続けた。その反動から自民党に回帰した結果という事なのか。なぜ、一度見限った自民党に回帰してしまうのか。信毎十二月十五日付の連載「深く現実的に」で元京都大学教授の大沢真幸はマルクスの「歴史は繰り返す。ただし二度目は笑劇として。」という警句を紹介している。人々は裏切られた過去の夢や期待を取り戻そうとして、再び裏切られる。一度目の失敗は悲劇、二度目の失敗は笑劇の様相を呈する。しかし、それを繰り返して、やがて本質的な変化に至る。なぜならば、人々にとりついた夢は決して消えることがないからだ。消費税が増税されないように、TPPに加盟することで農業も国民医療制度も壊滅させないために、大地震が迫っているのに原発を続行しないように、そして、何よりも平和憲法を失わないために、今回自民党に投票した人にも対話を始めていき。 (Y)

ご支援ありがとうございました



上伊那地区事務所でお礼の挨拶をする藤野さん(左)と三沢よしおさん(右から2人目)

光を大きくして 国民が願う政治に

藤野やすふみ

「今度こそ何としても勝ちたい！」という党員、後援会員の皆さんの熱い思いに支えられて、選挙戦をたたかいぬくことができました。本当にありがとうございました。

私の力不足で、皆さんの願いを実現することができず、大変申し訳ありません。

ただ、今回の選挙戦で、どの問題でも、前向きな提案を行い、行動する日本共産党の存在の大切さを実感しました。

二人の娘を育てているお母さんは、「原発問題で、共産党と『未来の党』を比べて悩みに悩んだけど、最後はブレずにがんばる共産党に決めました」と言っています。私の選挙カーに乗り、街頭で訴えてくれました。

共産党が大きくなってこそ、国民が願う政治に道がひらかれる・・・選挙戦を通じて、改めて痛感しています。



憲法改悪、原発再稼働、消費税大増税、TPP参加など、危険な動きが強まっています。参議院選挙も間近に迫っています。「国民の苦難あるところに共産党あり」・・・この党の一員として、がんばり抜く決意です！

NEC
裁判

原告側、陳述求め勝利へ

次回裁判、2月22日午前

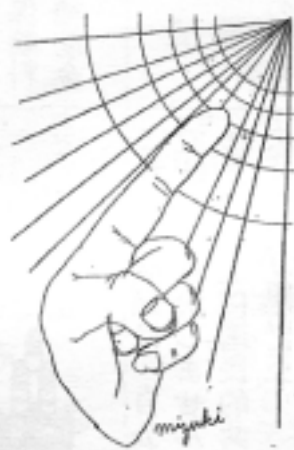
12月6日、長野地裁でNEC住民訴訟の7回目の弁論が行われました。原告側が求めていた証人採用は無く、次回裁判が、2月22日午前11時半から行われることになりました。

原告側は、次回裁判で「伊那市がNECライティング社の要請で、土地造成やインフラなどに多額の市民の税金がムダに使われたことなどを明かす陳述を

公約実現に がんばります

あたたかいご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。これからも、訴えてきた公約実現のために、みなさんと力を合わせてがんばります。

三沢よしお



代表らが改めて行い、裁判を公正にしたい」としています。

また、2

月22日午前11時半の第

八回目の裁判に、多く

の方の傍聴

参加を呼び

かけていま

す。



12月6日、地裁前の原告団

被災地 女川町への支援活動



女川町の知人宅前での荷降ろし

がわからないし、いつもモヤモヤしている」。新婦人創立50周年の準備の中で知り合った「コスモ代行」経営の西沢芳美さん(西春近)のつぶやき。それじゃということに仲間にも声をかけたら、短期間でお米、りんご、カボチャ、じゃがいも、ネギなどが1トン以上集まりました。そして、女川町五部浦地域の132世帯に一人ずつの個袋にして届けることができました。初めて被災地を目の当たりにした西沢さんは、「来てよかった。見ると聞くでは大違い。凄まじいひどさだ。被災後1年半経ってもちっとも復旧していない。政府は口ばかり・・・」との感想。この活動がきっかけで、12月には座布団100枚余も届けることができました。仮設住宅の冬は寒く、「背中に座布団を当てるだけでずいぶん暖かい。ありがたい」との便りが写真を添えて届きました。物資のご協力ありがとうございました。赤旗日曜版12月23日号に女川町のことが取り上げられています。

(西簗輪 荒 恵子)

昨年10月、女川町に直接、救援物資を届けに行きました。その経過は、こうです。「私、被災地に行つて、支援物資を直接この手で届けたいと思っているの。でも現地

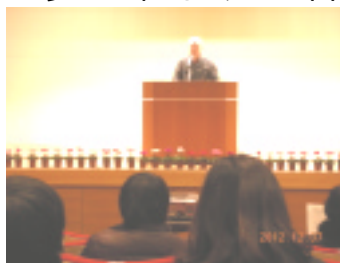
2012上伊那平和集会

12月7日、「2012上伊那平和集会」が、南箕輪村民センターで行われました。

まず、長崎での原水禁世界大会参加者（上伊那から21名）の代表から報告がなされました。原水爆禁止上伊那協議会が作成した報告集も配布されましたが、報告者は一様に、「核兵器を無くすために自分のできることから始めたい」「原爆被害の実相を周りの人に伝えていきたい」との思いを述べていました。

記念講演は、県原水協事務局長の丸山稔さん。「核も安保もない世界へ」と題してお話でした。

サブタイトルは「唯一の被爆国として、原発重大事故を経験した国として、憲法9条を持つ国として」。これらの事実の重みをしっかり受け止めるなら、日本が歩むべき道は自ずと決まってくるはずで、こんなに明るい未来が待っているというお話でした。



記念講演をする丸山稔さん



ささやかだが
大事な「事業」

飯島 光豊

一般質問で「孤立死を防ぐネットワーク事業」の創設を提案した。近所で一人暮らしの方が、誰にも気づかれずに亡くなられたことがきっかけだ。市は、要援護高齢者台帳に5173名を整備しているというが、近隣を見回しただけでも一人暮らしや高齢者だけの世帯は

意外と多い。市民税非課税世帯の一人暮らしの高齢者と高齢者のみ世帯には、緊急通報装置の導入費を助成もしくは貸与しているが227人だけ。「事業」と言っても、新聞がポストに溜まっているなどの異変に気づいたら、至急、市に通報してもらうというだけの市と業者の協定。ささやかだが大事な「事業」は、この1月中にも立ち上げた。いとこの市保健福祉部長の答弁があった。



昭和初期の上伊那

2・4事件の頃 13

今号も2・4事件のおきた一九三三年（昭和八年）頃の労働組合運動の状況を見ていきます。

全協交通運輸伊那電分会

伊那電気鉄道（現JR飯田線）では1926年（大正十五年）五月、地域を揺るがす歴史的な大争議を闘ったが、その後すっかり停滞していました。

再建活動に取り組んでいた全協交通運輸伊那地区準備会は昭和六年十一月に検査を受けたが、まだほんの準備段階であったため中心になっていた伊藤三平（東箕輪村）は微罪として釈放されました。



伊那電の入船停車場

（大正初期）

樹木が立ち並び昼間でも薄暗いほどの道で、高尾町なので、人家もなく人通りの少ない林の中の道でした。

伊藤は釈放とともに活動を再開し、伊那北駅の合同運送店にいた池上正と連絡を取り、協力して伊那電従業員に働きかけて、昭和七年八月二十日池上正二宅において伊那電分会の創立大会をするまでに前進しました。分会の機関紙「ホイッスル」を毎月発行し、翌

以来、組合員の拡大に努力しましたが、十分成功しないうちに2・4事件の弾圧に巻き込まれ検査されてしまいました。（文中敬称略） 境区 有賀光良

伊那電の大争議 1925年（大正14年）伊那電気鉄道の労働者が、信州交通労組伊那支部とを結成しました。狼狽した会社側は活動家3人を解雇したので、翌年の5月に伊那電労組は二十日間及び大ス

伊那谷の歴史散歩

長野支部および上伊那地区準備会の責任者

の5月に伊那電労組は二十日間及び大ス

池上正一 伊那電分会責任者 伊藤三平 組織 伊藤、池上 財政 有賀、清水、機関紙 矢野寛之助 駅員班 細田明男、小沢兼太郎、有賀四郎 乗務班 浦野伝蔵、木下道三、矢ヶ崎恒利、宮下仕一、埋橋貞武 保線班 伊藤三平、清水寛蔵 電灯班 松山信雄

全協日本通信労組

上伊那地区準備会

全協交通の池上正一の説得により、昭和七年十月初旬に旧伊那中（現伊那北高校）下の路上で城倉芳平、大沢定男、池上正一の3名で第一回準備会を開きました。現在、伊那北駅から上伊那農業高校に向

かつ道は拡張されて車の通行量の多い道になっていいますが、当時は道幅の狭い農道で、両側にはつつそうと樹木が立ち並び昼間でも薄暗いほどの道で、高尾町なので、人家もなく人通りの少ない林の中の道でした。

随想

選挙雑感

有権者の要求にマッチした
ていねいな政策対話を

総選挙最終盤、荒井区通り町・錦町などの商店に向け「電話での対話」に挑戦しました。伊那に転居してはじめての体験。どの商店のかたにも丁寧な対応をしていただきました。

ズバリ「消費税増税をどう思いますか」と切り出すと、さすが商人、消費税に苦労しているだけあって、増税賛成という人はいません。

「消費税増税案が決まって初めての選挙。増税を許さない議員を大勢当選させて、『消費税増税を中止させる法案』をつくり消費税10%増税をやめさせましょう。絶対に消費税反対の共産党をいっばい当選させてください。」

「国の借金が大きいの、しかたないのでは?」「福祉にしっかりと使って欲しい」という人が幾人かいました。

「消費税創設以来、大企業の法人税率を何度も下げ、消費税収約250兆円のほとんどを大企業の減税分に当て、福祉に使った形跡はありません」「輸出大企業には『戻し税』として消費税を返しています」「税収を増やすためには、大企業の法人税率を元に戻し、応分の負担をしてもらうこと」「所得1億円を超えると所得税率が下がる。不公平税制を正すことです」「ムダをなくすなら政党助成金毎年320億円をなくすこと」等々、具体的に数字も上げて対話。ある婦人は「知りませんでした。教えていただいて有り難うございました。支持します。頑張ってください」となりました。

有権者の要求にマッチしたテーマでの対話は、少し時間がかかりませんが、楽しく対話ができました。今後の活動に生かしていきます。

(荒井区在住 K)

絵手紙

東春近 渡辺佐智子



催し案内

新春宣伝キャラバン

1月2日(水)

午前9時中川村スタート～辰野町まで
1日かけて北上。

伊那市は午後1時半、JA本所前

主催：共産党上伊那地区委員会

日本共産党本部党旗びらき

1月4日(金) 午前11時～

インターネット通信で

テレビ中継を視聴します

於：民主会館

日本共産党上伊那地区
党旗びらき

1月5日(土) 午後3時～5時

会費1000円 於：西町公民館

主催：共産党上伊那地区委員会

憲法9条を守りぬく

日本共産党全県活動者会議

1月14日(月・成人の日)

午後1時～4時

於：松本市勤労者福祉センター

主催：共産党長野県委員会

のぞみの会第11回政策研究会
ごみに関する講演会

1月13日(日) 午後1時

於：伊那市立図書館・視聴覚室

講師 池上洋通氏

(地方自治研究者・ジャーナリスト)

参加費：500円

主催：伊那のぞみの会

お問合せ 74-5826(井口)